

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

#### ◆C21プロフェッショナル・トップ研究会(8/30開催)【21世紀はクリティカル社会での企業経営】

- 1. 構造的矛盾の世界** 現代の象徴は「構造的矛盾」です。例えば、営業の出来る人とは、どんな商品でも売ることができる人のことで、商談とは値打ちを相手に伝えることです。しかし今の営業は価格交渉だけとなり、本質が忘れられ、表面的なものばかりの社会になっています。このような複雑性社会に対応するためには、今までの考えや対応は捨て、全く違った観点で考えなければいけません。
- 2. 金融産業が主役** 現代で一番考え直さなければいけないことは「金融産業が主役」だということです。破産したデトロイトシティは自動車産業で有名ですが、実際は金融業です。なぜなら自動車をローンで購入する人が多く、トヨタや日産もローン会社を持っています。金融産業は色んな形で影響しています。これからは専業主婦や高齢者等など家に居ながら金融売買する人が増えてくるでしょう。このような状況を自分のビジネスとどう絡むかを考える必要があります。金融産業は益々ウェイトが上がり、全ての産業に併用されることを前提にして考えていかなければなりません。
- 3. 共生と生存競争が併存する** 「共生」は一緒に生きていくこと、「生存競争」は勝つか負けるかです。今の時代はこの2つが一緒になっています。作る側の論理で作っているものは売れず、これからは買う側の論理で考えていかなければなりません。既存のものを組合せた場合でも新しい概念を創造するなど、主観ではなく、客観的にデータを見ていかなければなりません。
- 4. 人材・人財の適材化の努力が不可欠** 今はできる分野（これはできるが、これはできない）が狭くなってきており、出来る人・出来ない人の組合せをどうするかを考えなければいけません。「人材を活かす管理職」「組織を動かして目的を果たすことができる管理職」のレベルアップが不可欠です。

#### ◆BSOの「お役立ち」事業のキーワードは「海外化」

日本産業の生き残りは、各社が何らかの形で関係する「海外化」を如何に意図して、また計画的に取り組むかが重要な課題になっています。日本企業の「海外化」の方向性は大きく分けて3つあります。1つ目は積極的に海外に打ち出てビジネスを展開する方向、2つ目は海外から直接間接的に色々なスタイルで押し寄せてくる攻撃にうまく対処する事業・経営の方向、3つ目は多国籍ビジネスの「世界化」の方向です。

この3つの方向に対するBSOの協働支援は、それぞれの企業の事情に合ったビジネスモデルの開発と実現の協働支援となります。この取り組みのために、当面活躍の中心になる東南アジアでは、BSOホーチミンをBSOアセアンに発展させ、日本BSOとのタイアップ体制で協働支援の拡大に対処していきます。

#### ◆オリンピック2020年東京開催決定

オリンピック東京開催は日本再生の大きな要因になるでしょう。また世界は、今どこが動けば好循環の動きになるかを知っているようです。我々はこれに応えなければならず、それが自分の幸せのためにもなります。と言っても「頑張りましょう」だけではどうにもなりません。真面目に「過去の延長」的努力でも同じことです。

国際分業の中で、日本が果たすべき役割をどれだけの人が出来るかです。身の丈で新時代づくりの役割を分担して行きましょう。(西山)

#### ◆ベトナム出張記(9/7)

仕事で移動している人は1割にも満たないようで、リタイヤした人のグループが沢山います。日本も豊かになったのかと錯覚してしまいます。企業が苦しんでおり、若い人が質素な生活になれ、国家財政が破たん状態にあるにもかかわらず、これは何だろうと考えさせられます。将来のために色々と備蓄した蓄えで皆老後を有意義に過ごしているということだろうが、どこか可笑しいのです。21世紀は、混迷の時代と言われてきましたが、この現象をみると「21世紀は可笑しい世紀」と言った方が正確ではないかと思われまます。「可笑しい社会」であれば、それはそれで活き方のアイデアが出てきそうです。(西山)

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動(受託事業・企画事業・出版事業)のタイムリーな情報をいち早く多くの方々にご提供いただく為に発信しております。(お問い合わせはshienkikaku@bso.co.jpまで)

